准教授　**村本　由紀子**　MURAMOTO, Yukiko

1. 略歴

1984 年 4 月	東京大学文科Ⅲ類入学
1988 年 3 月	東京大学文学部社会心理学専修課程卒業
1988 年 4 月	株式会社 日本長期信用銀行 入行
1992 年 4 月	東京大学大学院社会学研究科社会心理学専攻修士課程入学
1994 年 3 月	同 修了（修士(社会心理学)）
1994 年 4 月	東京大学大学院社会学研究科社会心理学専攻博士課程進学
1997 年 3 月	東京大学大学院人文社会系研究科社会文化研究専攻博士課程単位取得退学
1998 年 4 月	京都大学総合人間学部基礎科学科 助手（2000 年 3 月迄）
1999 年 3 月	東京大学大学院人文社会系研究科　博士 (社会心理学)取得
2000 年 4 月	岡山大学文学部行動科学科 助教授
2001 年 4 月	岡山大学大学院文化科学研究科産業社会文化学専攻 助教授（兼任）
2004 年 4 月	横浜国立大学経営学部 助教授
2005 年 4 月	横浜国立大学大学院国際社会科学研究科 助教授
2007 年 4 月	横浜国立大学大学院国際社会科学研究科 准教授
2011 年 4 月	横浜国立大学大学院国際社会科学研究科 教授
2011 年 10 月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

社会心理学

b 研究課題

心と社会環境の相互構成過程の探究

1) 多元的無知による集団規範の維持過程
2) 文化的慣習の社会生態学的基盤
3) 組織文化・風土をめぐる諸問題

c 概要と自己評価

1) 集団規範の生成と再生産過程…人は周囲の他者の行動を観察し、特定の行動が共有されていると感じることによって、「規範」の存在を知覚する。人はその知覚に基づき、たとえそれが自らの選好とは異なっていても、規範にしたがった行動をとる傾向がある。この行動がさらに他者によって観察されることで、やがて、実際には誰も望んでいないはずの規範が予言の自己成就的に維持・再生産される。こうした「多元的無知」現象の共同主観的な相互規定メカニズムを検討することは、心の社会・文化的起源を探るうえで重要な意味をもつと考えられる。私たちは、実験室内にミニマルな規範伝達の連鎖を作り出すことで、このメカニズムに迫る試みを行っている。また、多元的無知の生起や伝播に影響を及ぼす社会環境の特質の探究も進めている。

2) 文化的慣習の社会生態学的基盤…ある社会や集団において、特定の慣習や思考様式が共有され、維持されている理由について体系的な検討を行うには、その慣習や思考様式を取り巻く生態環境の特質と歴史、環境に適応する過程で作り出された特有の社会構造や人間関係のありよう、それらの維持・再生産に寄与する個々人の心理や行動の特質、といった諸変数間の関係を丹念に探り、描き出すことが必要となる。私たちは、社会の現場における慣習や思考様式の「事例」に焦点を当て、マイクロ・エスノグラフィーの研究方法論を用いてその生成・維持過程を継時的に追跡する試みを行っている。

3) 組織文化・風土をめぐる諸問題…国や民族といった大きなレベルの文化に比して、小規模で人の入れ替わりが頻繁に行われる企業組織の文化は、変化プロセスの把握が比較的容易であるため、心と文化に関わる理論構築に向けた検証が行いやすいという利点がある。私たちのこれまでの研究では、強い組織文化は組織変革にとって正負両面の効果をもつ（生産性向上のための学習を促進する一方で、環境変化に対応した柔軟な変革を抑制しうる）ことが示された。現在はさらに視野を広げ、各種の人事制度（ハード）と文化・風土（ソフト）の相互作用の様相や、それらが従業員の心理・行動に与える多面的な影響過程についての検討を行っている。

自己評価

研究の実施にあたっては、研究室所属の大学院生はもとより、国内外の研究者（経営学・社会学・人類学等の関連他領域を含む）とも広く連携して、国際的・学際的な視野に立つ共同研究プロジェクトとしての展開に努めている。一部のテーマに関しては科学研究費の助成を受けている。いずれの研究テーマに関しても、その成果は随時、学会発表および学術論文として発信している。また、企業や地域共同体など、社会の現場に根差した研究を手がけていることから、実社会への研究成果の還元と、産学連携にも努めている。

d　主要業績

(1)　著書

分担執筆、村本由紀子、「『自己と他者』という問題をめぐって」、熊野純彦・佐藤健二 編 『人文知 3 : 境界と交流』、東京大学出版会、2014.9

(2)　論文

村本由紀子・遠藤由美、「答志島寝屋慣行の維持と変容: 社会生態学的視点に基づくエスノグラフィー」、『社会心理学研究』、第 30 巻 3 号、213-233 頁、2015.3

正木郁太郎・村本由紀子、「組織コミットメントが組織学習に及ぼす影響について」、『社会心理学研究』、第 31 巻 1 号、46-55 頁、2015.8

岩谷舟真・村本由紀子、「多元的無知の先行因とその帰結 : 個人の認知・行動的側面の実験的検討」、『社会心理学研究』、第 31 巻 2 号、101-111 頁、2015.11

(3)　書評・解説

村本由紀子、「異文化と組織とリーダーの社会心理学」、リクルートマネージメントソリューションズ 編 『RMS Message』37、35-36 頁、2014.11

村本由紀子、「日本人と『自己卑下』の諸相」、たばこ総合研究センター 編 『TASC Monthly』2015 年 11 月号、3 頁、2015.11

(4)　学会発表

国内、正木郁太郎・村本由紀子、「多様なメタ認知を通じた集団規範の「共有」過程の検討」、日本社会心理学会第 55 回大会、北海道大学、2014.7

国内、岩谷舟真・相田直樹・村本由紀子、「多元的無知のメカニズムとその帰結」、日本社会心理学会第 55 回大会、北海道大学、2014.7

国際、Yukiko Muramoto、「Perceived consensus or personal beliefs?: Effects of group norms on employees' behavior and attitude toward work」、28th International Congress of Applied Psychology、Paris, France、2014.7.13

国内、正木郁太郎・村本由紀子、「第三の集団表象の検討 : 重層的な集団認知の可能性について」、日本心理学会第 78 会大会、同志社大学、2014.9

国内、岩谷舟真・正木郁太郎・村本由紀子、「大学生の集団規範獲得過程に関する調査研究(1)」、日本グループ・ダイナミックス学会、東洋大学、2014.9

国内、村本由紀子、「他者のこころの認知と集団規範の生成 : 「暗黙のルール」はいかにして生まれるか」、日本認知心理学会公開シンポジウム「認知心理学のフロンティア : こころの常識と偏見を越えて」、京都女子大学、2014.10.18

国際、Ikutaro Masaki & Yukiko Muramoto、「When workplace diversity becomes a positive motivator: Various effects of organizational climate on diversity.」、The 11th Conference of Asian Association of Social Psychology、Cebu, Philippines、2015.8.21

国際、Shuma Iwatani & Yukiko Muramoto、「An experimental investigation on the antecedent conditions of pluralistic ignorance.」、The 11th Conference of Asian Association of Social Psychology、Cebu, Philippines、2015.8.21

国際、Yukiko Muramoto、「The multiple effects of psychological distance on the perception of consistency.」、The 11th Conference of Asian Association of Social Psychology、Cebu, Philippines、2015.8.22

国内、正木郁太郎・村本由紀子、「職場のダイバーシティがもたらす心理的影響」、日本心理学会第 79 回大会、名古屋国際会議場、2015.9.22

国内、榎本かおり・村本由紀子、「事後情報の提示媒体と時間経過が目撃証言に及ぼす効果」、日本心理学会第 79 回大会、名古屋国際会議場、2015.9.24

国内、岩谷舟真・笠原伊織・川尻知弥・榎本かおり・綿村英一郎・村本由紀子、「地域活動への参加を促進する要因 : 流動性に着目して」、日本社会心理学会第 56 回大会、東京女子大学、2015.10.31

国内、正木郁太郎・村本由紀子、「ダイバーシティ組織風土に対する信念推測と組織制度の影響」、日本社会心理学会第56回大会、東京女子大学、2015.10.31

国内、相田直樹・村本由紀子、「暗黙理論が努力戦略に及ぼす影響」、日本社会心理学会第56回大会、東京女子大学、2015.10.31

⑸ 会議主催(チェア他)

国内、「日本社会心理学会第55回大会・自主企画ワークショップ」、その他、規範研究、最開拓:「多元的無知」を切り口に、北海道大学、2014.7.27

⑹ 受賞

国内、村本由紀子・遠藤由美、日本社会心理学会賞（奨励論文賞）、「答志島寝屋慣行の維持と変容：社会生態学的視点に基づくエスノグラフィー」、日本社会心理学会、2015.10.31

⑺ 研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金、基盤研究 (C)、村本由紀子、研究代表者、「関係性の類型と拡張自己評価維持過程」、2011～2014

文部科学省科学研究費補助金、基盤研究 (C)、村本由紀子、研究分担者（代表者の所属：横浜国立大学）、「職業教育・訓練の日欧比較研究：エンプロイアビリティとキーコンピテンシー開発の分析」、2012～2014

文部科学省科学研究費補助金、基盤研究 (C)、村本由紀子、研究代表者、「自他の認知の連続性と境界に関する多面的検討」、2015～

3. 主な社会活動

⑴ 学会

国際、International Association of Cross-Cultural Psychology、2016 Conference Organizing Committee (Treasurer)、2014.4～

国内、日本グループ・ダイナミックス学会、理事、学術雑誌編集委員、2015.4～